



巻頭言: 発展期に入った海事博物館

久保, 雅義

(Citation)

海事博物館研究年報, 33

(Issue Date)

2005-03

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005634>



発展期に入った海事博物館

海事科学部長 久保 雅 義

海事資料館が海事博物館になり、昨年10月1日に一周年記念式典を行いました。平成17年度の主だった事業を振り返ってみることにする。

入って正面に大阪から江戸までの航路図がある。これは折り畳んで保管していたために、畳み目が切れそうになっている。この修理、レプリカ造りとデジタル化が日本学術振興会で予算かが認められた。

仲島忠治郎コレクション、山田早苗コレクション、神戸帆船模型の会所蔵の帆船模型、これらの特別展示コーナーの展示ケースを日本財団から援助いただいた。これで博物館がグーと引き立ってきたように思っているのは私だけではないのではないか。現在博物館展示場に入りきれないものはプレハブ収蔵庫に保管してきた。しかしながらボランティアスタッフに折角磨いていただいたものが隙間から進入する埃でまた汚れ始めている。これをさけるために一号館に部屋をいただいた。効率よく収蔵するために、一号館の部屋は3スパンの続きの部屋にした。会計の方にも随分とお世話になった。これで大型の移動式収蔵庫を導入できた。これも日本財団の補助によるものである。

外部の方にとっては、多くの紙資料は殆ど見る機会がない。これでは時間が過ぎて劣化を待っているのみとなる。現在ボランティアスタッフ11名の方により、これらの資料が順番にデジタル化されている。海事博物館のホームページは着々とその内容を豊かにしている。これに関しては文化庁より資金援助をいただいている。

昨年の海の日には「客船の今と昔」と題して特別企画展を行った。この時期は国際海事フォーラムとオープンキャンパスがあったので、相乗効果をねらったものである。まずは第1回目の特別展と言うことで、色々と収穫はあった。これはみなとの博物館ネットワークフォーラムからの支援をいただいた。

以上見てきたように昨年だけで4件の外部資金を頂いたことになる。何故だろうかよく話をする。

山田早苗コレクションは専門員の内田先生と山田先生との長いつきあいの結果として入ったものと理解している。近々顧問の杉浦先生経由で25隻の帆船模型の寄贈があると聞いている。博物館の名前を信頼して、我々に託してくれたものであると考えている。

ボランティアスタッフの地道な活動により、紙資料が着々とデジタル化され、ホームページが整備されている。これは外部で関心のある人々には驚きではないかと考えている。正規職員が居ない中でこれだけの実績が上がっていることは凄いことであると思っている。黙々と仕事に勤しんでいただいている先輩方に心より感謝する次第である。

このような中で資料の整備は着々と動き始めた。私は仕事柄、成長曲線を扱う事が多い。最初は努力してもなかなか成果が上がらないが、あるレベルを超えると急激に成果が上がり始め、そして最終的には飽和すると言う曲線である。これではれば海事博物館は30年近い助走期を経て、すでに成長期に入ったと見なせる。博物館館長を石田憲治先生にお願いすることができた。

海事博物館の益々のご発展を願っています。